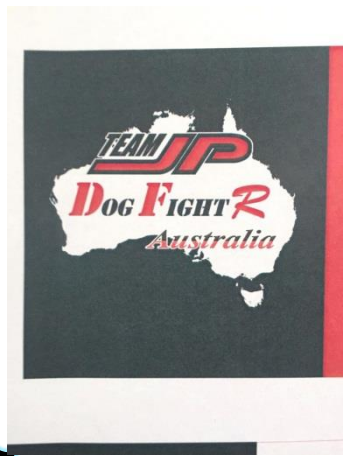


2016 レース結果報告書

鈴鹿8時間耐久ロードレース)
～FIM Endurance World Championship～



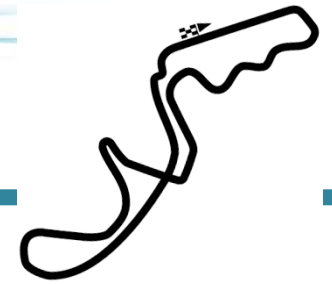
x

DOG FIGHT R

x



結果報告



Race

2016年の鈴鹿8時間耐久レースが終わりました。好調な事前テストから一転、本戦では転倒、トラブルが続きチェッカーを受ける事は出来ましたが、完走には規定周回数が足らず悔しい結果となってしまいました。事前テストからレースウィークに起きた詳細レポートを含め、レース結果をご報告させていただきます。

トンベイ名 : 鈴鹿8時間耐久ロードレース(FIM世界耐久選手権 第3戦)

開催日 : 2016年7月31日

観客動員 : 124000人(4日間)、69000人(決勝日)

スーレ結果 : EWC #88 Mark Aitison, Corry Turner, 木村泰善 予選10位 決勝 —
(55位・162周)

WEBリザルト : http://www.suzukacircuit.jp/result_s/2016/8tai/



事前テスト

Race



今年は参戦権を得るために全日本選手権の開幕戦の鈴鹿大会でトライアウトが行われ、成績上位者しか本戦に参戦する事が出来ない条件となり、レベルアップした8耐本戦に向け春から準備に取り掛かりました。

その開幕戦でトライアウトをトップで通過。7月に入り開催された事前テストでも、マーク選手が速さを発揮して、トップテンに割って入る好調な滑り出しを見せてくれました。しかし、2回目の事前テストでコーリー選手が3周目にヘアピンコーナーで転倒。なんとヘアピンコーナー手前の高速コーナーで前走車が漏らしたオイルに乗って転倒を喫してしまったのです。マシンはタイヤバリアを飛び越えてフェンスに直撃、突き刺さった状態で宙吊りとなったマシンは大破。この辺りから歯車が狂いだします。

なんとかマシンの全面修復を終える事は出来たものの、スペアパーツを使用しての復旧により、本戦に向けてのバックアップパーツに限られるギリギリの状態です。レースウィークを迎える事となりました。



公式練習

Race



水曜日の搬入が終わり、マーク選手たちも合流。チームの現状と車体状況を説明しレースウィークの戦い方をミーティングして初日を終わります。

当初は予選でトップテン、決勝もトップテンを目標にしていたのですが、予選で無理をする事が出来ない状況から、決勝に向けての着実なセットアップに目標を変更。

そして木曜日の公式練習を迎えます。マークは組み直したマシンで順調にタイムアップを見せ4周目には2分11秒台に突入。4番手タイムに浮上して迎えた5周目にまたしてもアクシデントが起こります。ピットアウトしてコースに復帰してきたマシンがマーク選手に気付かずいきなりコースの左に寄せてきてしまい、マーク選手はこれとの接触を避ける為やむなく左にコースオフ。100kmを超えるスピードでタイヤバリアに突っ込んでしまいます。

修復したマシンは再び大破。フロント周り、タンク、フレームにも大きな傷を負ってしまいました。それでもメカニックたちはパーツをかき集め、午後の2回目の走行終了間際までに何とかマシンを修復。コーリー選手がマシンチェックの為にコースインして3周しかできませんでしたが、マシンの回復を確認。なんとか翌日の予選には出走できる準備が整いました。



公式予選

Race



公式予選前のフリープラクティスでマシンの修復を確認したマーク選手は、転倒による打撲はあるものの順調にタイムアップを図り、2本目の走行で2分9秒代を記録。事前の打合わせ通りアタックしていなくても余裕を持って出せるタイムとの事でマークのライディングへの影響や、マシンの状態に問題がない事は確認できました。

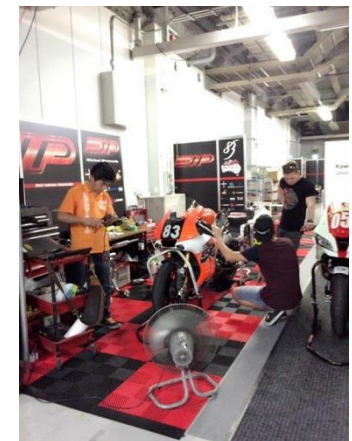
そして迎えた公式予選。第1ライダーのマーク選手からアタックです。既に路面温度は50度を超えてコンディションとしてはベストではありませんがそこはイコールコンディション。タイムアタックに入ります。集団から間隔を取ってコースインしたマーク選手は3周目に早くも2分9秒289を記録。更にペースを上げますが、遅いマシンに引っかかりクリアラップが取れません。それでも最終アタックで2分9秒269にタイムを縮めて公式予選を終えます。

マーク選手がタイムアタックを終えた時点で総合9番手。その後にカワサキのチームグリーンがタイムアップして10番手に落ちますが、これ以後にマーク選手のタイムを超えるライダーは現れず総合10番手「トップテン」を獲得しました。

決勝を見据えたセットアップで、ハードアタックもしない中でマーク選手が記録したタイムがトップテンに残ったことはチームを大いに勇気づけてくれました。

しかし翌日のトップテントライアルで再び悪夢が。トップテントライアルに臨んだマーク選手がウォーミングアップラップでまさかの転倒。幸いライダーに怪我は無く、マシンも中破で済みましたが、マシン修復は決勝に向け夜を徹して行われ、8時間を走り切るための細心の注意を持ってメンテが行われました。

| Pos. | No. | Team | Overall Time | Qual. Time | Start Time |
|------|-----|------------------|--------------|------------|------------|
| 1 | 101 | Yoshimoto Racing | 2:09.269 | 2:09.269 | 10:00:00 |
| 2 | 102 | Yoshimoto Racing | 2:09.269 | 2:09.269 | 10:00:00 |
| 3 | 103 | Yoshimoto Racing | 2:09.269 | 2:09.269 | 10:00:00 |
| 4 | 104 | Yoshimoto Racing | 2:09.269 | 2:09.269 | 10:00:00 |
| 5 | 105 | Yoshimoto Racing | 2:09.269 | 2:09.269 | 10:00:00 |
| 6 | 106 | Yoshimoto Racing | 2:09.269 | 2:09.269 | 10:00:00 |
| 7 | 107 | Yoshimoto Racing | 2:09.269 | 2:09.269 | 10:00:00 |
| 8 | 108 | Yoshimoto Racing | 2:09.269 | 2:09.269 | 10:00:00 |
| 9 | 109 | Yoshimoto Racing | 2:09.269 | 2:09.269 | 10:00:00 |
| 10 | 110 | Yoshimoto Racing | 2:09.269 | 2:09.269 | 10:00:00 |



決勝

Race



10番手からまずまずのスタートを切ったマーク選手はオープニングラップを11番手で通過。そこから徐々に前を行く車両を追い詰め8周目には8番手に浮上。更に同じヤマハ車両のYART YAMAHAのパークス選手を捉えて16周目には7番手に浮上。予定の22周目にポジションをキープしたままピットイン。コーリー選手にバトンを繋ぎます。

事前テストの転倒からやや調子を落としているコーリー選手ですが、路面温度の高い厳しい時間帯を走り切り15番手をキープしてマーク選手にバトンを繋ぎます。再びマーク選手が追い上げを開始。12番手までポジションを回復したところで予定よりも1周早くマーク選手が緊急ピットイン。ギヤをチェンジするためのロッドが折れてギヤチェンジできない状態になってしまい急遽ピットインしてきたのです。

折れた場所がバックストレートだったため最小限のタイムロスでピットインしてきたマシンを修復してコーリー選手に交代してコースイン。まだまだトップテンは十分狙えるポジションです。ポジションをキープして順調に走行を重ねるコーリー選手でしたが19周目にスプーンコーナー手前で突然マシンを止めます。

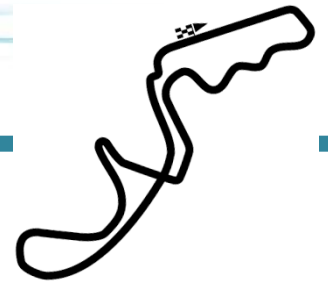
転倒の情報も交錯する中、レッカーに乗って戻ってきたマシンからは僅かにオイルが漏れている。他車に迷惑がかかる危険な状態と察知したコーリー選手はマシンを止め回収を待っていたのです。

エンジンに異常は無く、エンジンケース類からのオイル漏れも見当たらない……。原因はオイルプレッシャースイッチからのオイル漏れ。通常は壊れる事のない部品ですが度重なる転倒の影響によるものか？スペアと交換してライダー交代と共に再びコースに復帰します。



決勝

Race



上位入賞の目標は断たれましたが、少しでもポジションを回復して完走するためにマーク選手の追い上げが始まります。スタートから3時間半が過ぎコース上は最も暑い時間帯になりますがマーク選手は2分10秒台で周回を重ね上位陣と遜色ないタイムでポジションを回復して行きます。しかし8周目にスリップダウンによる転倒を喫してしまいます。

再びピットでの修復が始まりカウルやガソリタンクを交換してマシンを送り出しますが、ピットアウトしたコーリー選手が再びコース上でストップ。コースのショートカット付近でのストップだった為マシンを押し帰ってきたコーリー選手。

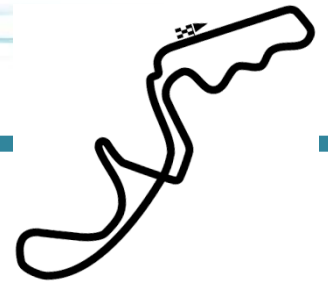
今度はエンジンが掛からない。エンジン本体に異常は無く、最後にECUを交換したところで復活した。やはり転倒によるものか・・・。

その後はマシントラブルもなく順調に周回を重ねる二人のライダーですが、このままでは僅かに周回数が完走に届かない計算。交換したガソリタンクの容量も少し小さい為ロングランも出来ない状況。ギリギリだがガス欠の可能性もある。夜間でのガス欠は非常に危険でリスクが高い。その為チームはピットインを選択。最後にチェッカーを受けさせるためにラスト30分でマーク選手に交代。このレースウィークに速さと強さを見せてくれたマーク選手がチェッカーライダーを務め最後まで走り切りチェッカーを潜りました。



感謝

Race

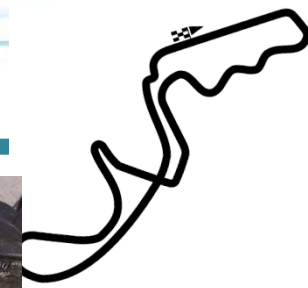


鈴鹿8時間耐久参戦に向け、今年も多くの企業や支援者の方々に支えられて参戦する事が出来ました。この場をお借りしてチームスタッフ一同より深く御礼申し上げます。結果としては完走扱いにならず結果を残すことが出来ませんでした。予選で見た速さはファクトリー勢を抑えてトップテンに入り、世界に向けてチームの力と速さをアピールする事が出来ました。そして決勝を通して得た様々な経験は、非常に多くの収穫となり来季に向けての糧となりました。

この速さを本線でも発揮出来るチーム力の底上げを図り2017年に向けスタートしてまいります。そして今年の予選結果により2017年の出場権が獲得出来ました事を最後にご報告させていただきます。



活動



今年松戸市長に表敬訪問
広報での参戦発表など今後
に繋るお話ができました。

今年松戸市からも議員が駆けつけて声援頂きました。



昨年以上の観客動員
でピットウォークは超
満員。来年は更に盛り
上がりそう。



毎年恒例の保冷剤の配布
。当チームの風物詩となっ
た大人気のサービスで多
くの観客に喜んでいただ
きました。



EXEDY様からMOTOGP
品質のクラッチのご提
供とうちわなども配布
させて頂きました。



スポンサー

Sponsor

Sponsor



ご支援・ご協力を賜り誠に有難うございます。来年も頑張ります！

